

---

---

# NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.48 Oct., 2007

## 目次

企画案内	1
保物セミナー2007(10周年記念)のご案内	1
理事会報告	3
平成19年度第2回理事会	3
企画委員会報告	4
平成19年度第2回企画委員会	4
編集委員会報告	5
平成19年度第2回編集委員会	5
国際対応委員会	7
2007年度第1回国際対応委員会	7
IAEA・BSSへの取り組みについて	8
専門研究会等の報告	8
ICRP新消化管モデル	8
大学等教員協議会	9
若手研究会	9
学会掲示板	10
企画委員中田博三氏ご逝去の追悼文	10
インターネットグループの活動	10
学会刊行物の案内	10
「学友会」活動報告	11

## 企画案内

### 保物セミナー2007(10周年記念)のご案内

保物セミナーは原子力・放射線及び保健物理に関するホットな話題を取り上げ毎年、関西において開催しています。本年はホットな話題として①危機管理体制、②倫理・隠蔽・改ざん問題、③電磁界に対する健康影響、④原子力分野における人材育成、⑤線量概念と測定の最前線を取り上げました。また、特別講演として原子力安全・保安院首席統括安全審査官に「新潟県中越沖地震と原子力発電施設の耐震対策について」のお話をして頂く事になっております。今回も、沢山の方々にご参加いただき、活発なご討論をお願いします。

開催日：平成19年11月12日(月)～13日(火)

場 所：大阪科学技術センター

主 催：保物セミナー実行委員会

主催団体：日本保健物理学会、(社)日本アイソトープ協会、(社)日本原子力学会関西支部、  
(財)大阪科学技術センター電磁界調査研究委員会、関西原子力懇談会、(財)電子科学研究所

後 援：文部科学省

協 賛：NPO安心科学アカデミー、医療放射線連絡協議会、(社)日本放射線技術学会、(社)大阪府放射線技師会、  
(財)原子力安全技術センター、(財)放射線計測協会、大学等放射線協議会、  
(社)応用物理学会放射線分科会、(社)大阪ニュークリアサイエンス協会、(財)放射線影響協会、  
放射線安全管理学会、(財)原子力研究バックエンド推進センター

※事前参加申込を受け付けています。申込用紙は下記 URL からダウンロードできます。  
<http://homepage3.nifty.com/anshin-kagaku/sub070829hobutsu2007annai.html>

プログラム

11月12日(月)

13時00分~13時10分

(1) 開会の挨拶

保物セミナー2007 実行委員会委員長 辻本 忠

13時10分~15時00分

(2) 危機管理体制

基調講演 日本の危機管理体制について

座長 日本アイソトープ協会 常務理事 河田 燕

日本の原子力防災について

エネルギー政策研究所 所長 神田啓治

放射線源を用いたテロ行為への対策について

原子力安全委員会事務局管理環境課長 青木 昌浩

テロ対策に用いられている装置について

日本アイソトープ協会業務二課 課長 木村俊夫

ポニー工業(株)技術副本部長 藤本真也

総合討論

15時10分~17時00分

(3) 倫理・隠蔽・改ざん問題

原子力と技術倫理

座長 大阪大学大学院教授 飯田敏行

臨界事故の衝撃と対策

京都大学名誉教授 西原英晃

「原子力・放射線」界の信頼確保に向けて

原子力安全システム研究所 技術システム研究所 所長 木村逸郎

フジサンケイ月刊エネルギー編集顧問 山名康裕

総合討論

18時00分~20時00分

(4) ボイリング・ディスカッション

コーディネータ 放射線取扱主任者部会近畿支部長 豊田亘博

11月13日(火)

9時00分~10時50分

(5) 電磁界に対する WHO の環境保健クライテリア 大阪科学技術センター電磁界調査研究委員会企画行事

座長 大阪大学名誉教授 山本幸佳

基調講演 電磁界による健康影響 (WHO の報告)

明治薬科大学大学院 教授 大久保千代次

電磁界と健康—細胞・動物研究—

弘前大学大学院 教授 宮越順二

電磁界と健康—疫学研究—

東京女子医科大学 教授 山口直人

総合討論

11時00分~13時00分

(6) 原子力分野における人材育成 (討論会)

原子力人材確保の現状と課題

モデレータ (株)日本ネットワークサポート社長 岸田哲二

(株)日本ネットワークサポート社長 岸田哲二

---

東京大学における原子力教育

東京大学大学院 教授 小佐古敏荘

原子力教育と原子カルネッサンス

大阪大学大学院 教授 竹田敏一

京都大学原子炉実験所の新計画について

京都大学原子炉実験所 教授 三島嘉一郎

近畿大学原子力研究所における原子力教育

近畿大学原子力研究所所長 伊藤哲夫

福井県における原子力教育

若狭湾エネルギー研究センター常務理事 来馬克美

総合討論

コメンテーター 京都大学原子炉実験所 教授 渡邊正巳

14時00分～15時00分

(7) 特別講演

司会 大阪大学名誉教授 宮崎慶次

演題 新潟県中越沖地震と原子力発電施設の耐震対策について

経済産業省 原子力安全・保安院 首席統括安全審査官 福島 章

15時00分～17時00分

(8) 線量概念と測定の最前線 保健物理学会企画行事

挨拶

日本保健物理学会 企画委員長 古田定昭  
座長 藤田保健衛生大学大学院 教授 下 道国

基調講演 線量概念の問題点

神戸大学大学院 教授 小田啓二

ICRP 新勧告による外部被ばく線量評価

日本原子力研究開発機構 吉沢道夫

ICRP 新勧告による内部被ばく線量評価

名古屋大学医学部 教授 石樽信人

線量測定の最前線 その1

(株)千代田テクノル 寿藤紀道

線量測定の最前線 その2

日本原子力研究開発機構 木名瀬 栄

(9) 閉会の挨拶

保物セミナー2007 実行委員会 副委員長 山本幸佳  
(近畿大 杉浦紳之)

## 理事会報告

### 平成19年度 第2回理事会議事概要

日時：平成19年5月11日（金） 10:15～13:00

場所：原子力機構 システム計算科学センター（上野）7F 会議室

出席者：

理事：小田（会長）、猪俣、斎藤、酒井、杉浦、谷口、服部、林、古田、村上、山澤

参与：高見、山外

監事：千葉

委任出席：太田、下(監事)

議事概要：

- (1)平成19年度予算案について説明があり、「日中韓交流プログラム」を「国際交流プログラム」とすること等、若干の修正をすることとなった。
- (2)平成19年度総会資料、総会の手順及び理事会ポスター案について説明があり、内容等についてのコメントは総務理事に送ること、総会時の事業計画説明用としてそれぞれの委員会・担当毎にパワーポイント資料を作成することとなった。

- (3)企画委員会報告として、専門研究会の設置状況、今年度の企画関係行事の予定について紹介があった。これに関連し、企画行事の内容の学会誌への反映を検討することとした。また、ニュースレター郵送配布を今年度中に廃止することについて了解された。
- (4)国際対応委員会報告として、韓国放射線防護学会(KARP)研究発表会への参加報告及び同学会との今後の連携に係る会合の内容に係る報告があった。これに関連し、今後の KARP との交流の仕方（特に日中韓3カ国の枠組みとの関係や相互招待の方法等）について早期に決定するとともに、学会誌の相互交換・投稿及び HP のリンク等について検討することとした。また、国際対応委員会の今期メンバーについて承認された。
- (5)編集委員会報告として、編集委員会によるプレ査読の方針、DVD 販売の方法等について説明があった。
- (6)放射線防護標準化委員会報告として、現在の活動状況等について説明があった。
- (7)大学等教員協議会報告として、活動予定（研究発表会における活動内容）について紹介があった。
- (8)広報関係では、HP の更新の依頼方法の変更、リスクコミュニケーション専門研究会と連携した活動計画等についての説明があった。また、学会広報に対する病院関係者からの期待は大きい、まず専門研究会において十分検討する必要がある等の意見があった。
- (9)原子力学会、放射線技術学会、応用物理学会等との活動状況について説明があった。
- (10)医療分野との協力を進めるため、医療分野の関係者の中から理事を会長指名で新たに任命することが提案され、了解された。
- (11)男女共同参画に係るアンケートについて、とりまとめ結果をホームページで公表することが紹介された。
- (12)入退会について承認された。

入会：（正会員）5名、（準学生会員）5名 退会：（正会員）6名、（正学生会員）1名

以下メーリング理事会

(13)国際対応委員会のメンバー1名について承認された。（5月24日付）

(14)退会について、承認された。（5月24日付）

退会：（正会員）6名

(15)入退会について、承認された。（6月4日付）

入会：（正会員）2名

（総務理事：原子力機構 村上 博幸）

## 企画委員会報告

### 平成19年度 第2回企画委員会議事録

日時：平成19年8月6日(月) 13:30~17:00

場所：原子力研究開発機構システム計算科学センター

出席：古田(委員長)、太田、飯本、大内、伴、米原、山崎、中田<sup>陽</sup>(幹事)、渡辺<sup>想</sup>(中田<sup>博三</sup>代理)

議題

1. 第1回企画委員会議事録確認
2. 理事会報告
3. 各専門研究会活動報告
4. 保物セミナーでの企画
5. 今年度企画行事の検討
6. インターネットグループ報告
7. その他

配布資料

- 2-1 平成19年度第1回企画委員会議事録(案)
- 2-2 平成19年度第3回日本保健物理学会理事会議事録(案)
- 2-3 ICRP 新消化管モデル専門研究会
- 2-4 保物セミナー2007 計画
- 2-5 平成19年度事業計画
- 2-6 インターネット (IG) グループの活動について
- 2-6-1 学会ニュースレターの郵送廃止について
- 2-7-1 屋内ラドンリスクに関する疫学研究とその評価

---

2-7-2 「放射線防護に用いる線量概念の専門研究会」活動報告書

2-7-3 委員会への若手研参加について

参考資料

参考資料 2-1 医療被ばくに関するシンポジウム関連の資料

参考資料 2-2 UNSCEAR 報告書に学ぶこれからの放射線影響研究(案)

議事

1. 第1回企画委員会議事録

前回会合の議事録を確認した。

2. 理事会報告

理事会での議事・報告事項を確認した。なお、保物学会のHPに福土理事を追記する。本件は、インターネットグループで対応することとした。

3. 各専門研究会活動報告

各専門研究会担当委員からそれぞれの専門委員会の中間報告があった。

ウラン健康影響専門研究会については、報告書をまとめ、今後HPで公表する。内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正法研究会については、11月頃にシンポジウムを開催予定。ICRP新消化管モデル専門研究会は、第1回会合を6月25日に開催、放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会は、第1回会合を4月26日に開催した旨の報告があった(日本保健物理学会HP(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/>) 臨時委員会・専門研究会 参照)。

4. 保物セミナーでの企画

2007年度の保物セミナーの計画が紹介された。今年度は、11月12日から13日の2日間を予定している。企画委員会担当は、13日15:00~17:00に「線量概念と測定の前線」と題してセッションを予定。

5. 今年度企画行事の検討

今年度企画行事の検討に関連して、医療被ばくに関する昨年度の実績及び、日本放射線公衆学会のシンポジウム及び医療従事者に対する放射線知識調査等の情報紹介があり、引き続き医療被ばくに関する調査を継続することとした。

6. インターネットグループ報告

Newsletter No. 48は、9月末を目途に発行することとした。

また、Newsletterを郵送している会員についてメーリングリストへの加入をお願いすることとし、Newsletterの様式についても、ホームページ専用で見やすくできるよう検討することとした。同時に、メーリングリスト加入率を向上させるため、未加入者に加入を促すメールを送付することとした。

7. その他

- ・前期専門研究会の「屋内ラドンリスクに関する疫学研究とその評価」及び「放射線防護に用いる線量概念の専門研究会」の報告書の提出があり、専門研究会報告シリーズとしてHPに掲載することとした。
- ・若手研からの企画委員会への関与について、若手研から1人参加することとなった。その位置づけについては、委員とする方向で調整することとなった。
- ・原子力安全委員会及び放射線医学総合研究所主催、日本保健物理学会他後援のシンポジウムが平成19年11月17日に開催されるとの紹介があった。
- ・次回の会合は、11月26日(月)に開催予定。

(企画委員会幹事：原子力機構 中田 陽)

## 編集委員会報告

### 平成19年度 第2回編集委員会議事録

日時：平成19年6月18日(月) 13:30~17:00

場所：東京大学アイソトープ総合センター1F会議室

出席：斎藤(委員長)、木名瀬(幹事)、赤羽、石川、木内、小池、中野、中村、林、安岡、横山、大倉(若手)、笠原(事務局)

議題

1. 第1回編集委員会議事録確認
  2. 次号以降の企画記事の検討
  3. 研究発表会に関連した記事の提案
  4. 論文審査状況、42-2、3号編集進捗状況の確認
-

---

---

5. 学会誌 DVD の販売

6. その他

配布資料

- 2-1 2007 年度第 1 回編集委員会議事録 (案)
- 2-2 企画記事などに関する分担の提案
- 2-3 第 41 回研究発表会に関連した記事提案
  - 2-3-1 A パート進捗状況
  - 2-3-2 B パート進捗状況
  - 2-3-3 C パート進捗状況
- 2-4-1 論文審査状況
- 2-4-2 若手研究会記事
- 2-5 第 41 回研究発表会での学会誌 DVD 販売(報告)

参考資料 1 論文審査システム

参考資料 2 電子ジャーナル化された「保健物理」誌の利用について

参考資料 3-1 「保健物理」投稿規則

参考資料 3-2 「保健物理」誌の投稿区分

参考資料 3-3 「保健物理」投稿の手引き

参考資料 3-4 Japanese Journal of Health Physics Instruction to Authors

参考資料 4-1 編集委員、査読者の専門分野

参考資料 4-2 査読委員

参考資料 5-1 抱負(理事会への提出資料)

参考資料 5-2 日本保健物理学会第 41 回研究発表会プログラム

参考資料 6 編集委員会ポスター

参考資料 7 編集委員会名簿

議事

会合に先立ち、編集委員長より、今年度編集委員会の抱負が述べられた。

1. 前回議事録の確認

2007 年度第 1 回編集委員会議事録が承認された。

2. 次号以降の企画記事の検討

英文などによる特集記事、J to W、巻頭言、カラー口絵の企画、校正・編集後記の分担について検討した。企画記事については、記事掲載の半年前の編集委員会において、2 名以上の担当委員から提案を行い、委員会の承認を受けて手続きを進めることとした。

3. 研究発表会に関連した記事の提案

第 41 回研究発表会に関連した内容について、論文投稿の勧誘、企画記事の立案などを検討した。論文投稿の勧誘については、特に、新規性、実用性などの視点から論文投稿の勧誘をすることとした。また、論文投稿を勧誘する際、編集委員会から正式な文書を著者宛に送付することとした。なお、勧誘した論文の審査については、通常どおりの審査プロセスを経ることとした。

また、研究発表会の内容に関する記事として、印象記、総会資料、学会賞、ポスター賞などの紹介をしてはどうかとの意見があった。

4. 次号以降の企画記事の検討、論文審査状況、

42-2、3 号編集進捗状況の確認、若手研究会記事

A、B、C パートの企画記事について進捗状況を確認した。巻頭言、話題、情報、解説、レポート、Review、Topics、J to W について、新たな企画の提案がなされた。各企画については、学会誌各号に担当委員を割当てた。

42-2 号の編集状況、次号 42-3 号以降の掲載論文の審査状況が確認された。

若手研究会のページに関する内容、今後の予定などが確認された。業務紹介コーナーなどの定期記事、研究発表会時に実施した若手研究会活動内容などの不定期記事の企画について報告された。

5. 学会誌 DVD の販売

第 41 回研究発表会で実施された、学会誌 DVD 販売について報告された。また、残部の DVD 販売についても議論され、学会事務局に、その保管・販売について依頼することとなった。

6. その他

論文審査システム、電子ジャーナル利用、投稿規則、投稿区分の内容、査読委員の状況、第 41 回研究発表会での

---

---

編集委員会ポスター、編集委員会名簿などについて確認された。

次回の会合は、平成19年9月14日（金）13時30分から、東京大学で開催されることとなった。

（編集委員会幹事：原子力機構 木名瀬 栄）

## 国際対応委員会

### 2007年度 第1回国際対応委員会議事録

日時：2007年7月2日 13:30～15:15

場所：大手町ビル 7F 電中研本部第3会議室

出席者：酒井委員長(放医研)、服部副委員長(電中研)、山外(JAEA)、赤羽(放医研)、加藤(JAEA)、高崎(JAEA)、橋本(JAEA)、佐藤(東電)、伊知地(幹事：電中研)

欠席：山口和也(大阪大)、山口恭弘(JAEA)、飯田(名大)、占部(福山大)

議事：

(1) 今期国際対応委員会陣容について (酒井)

様々な専門の方に委員をお願いした。各専門を活かした対応をお願いしたい。

(2) 国際対応委員会活動方針について (酒井)

「新勧告後」と「国際連携」をキーワードとして活動を進めたい。

① 「新勧告後」への取り組み

- ・ICRP 新勧告を受けて、BSS や国内法への反映に関する動向に注目し、必要に応じて対応する。
- ・新勧告策定に際し、保物学会から提出したコメントが、どのように新勧告に反映されているかを分析する。
- ・反映されなかったコメント等、積み残された論点を記憶が新しいうちに整理し、今後の課題を明らかにする。

② ICRP 対応の継続

- ・今後発表される文書へのコメントを提出していく。分野ごとに専門の近い委員を中心に取りまとめを行う。

③ 国際連携の強化

- ・IRPA や AOARP 活動の窓口としての役割を果たす。
- ・アジア諸国放射線防護学会との連携を強化する。
- ・2010年日本での開催が決定している次回 AOCRP-3 (大会長は東大・小佐古教授) の準備に取り組む。

(3) 国際交流について

理事会に提出した資料を基に韓国放射線防護学会との連携について報告があった (酒井)。

- ・これまで4回にわたり日韓の交流に関する話し合いの場を設け、それぞれの学会への相互招聘と打ち合わせ会合の開催など、連携の枠組み出来上がった。次は、交流の中身を具体的に検討する段階である。
- ・日韓交流とは別に日中韓の3カ国交流プログラムが第1回 AOCRP の際に合意された。これまでのところ円滑に機能しているとはいえないが、アジア地域の放射線防護を考える上で中国は重要な位置を占める。来年の IRPA-12 では中国を交えて今後の連携のあり方につき検討を進める。
- ・中国側のコンタクトパーソンが不明であったが、今後 劉 森林氏 (中国原子能科学研究院) を窓口とすることになった。(服部)
- ・日韓、あるいは日中韓の交流においてどのような分野について情報交換を行うか、あるいは情報交換の現状について意見交換が行われた。
- ・中国の医療被ばくの実態や韓国の最新の状況を知りたい。(赤羽)
- ・医療被ばくはこれまで保物ではマイナーな領域であったが、保物で積極的に取り上げるべき分野である。(赤羽)
- ・国際対応委員会としては国際的な活動を通して、今の保物に欠けている取り組みを理事会に具申していきたい。医療被ばくもそのような分野のひとつと考えている(酒井)。
- ・中国は原子力発電もこれからどんどん増やしてく。現在8GWを60GWまで拡大する予定である。日本の原産会議のようなものも中国で立ち上がってきている。(服部)
- ・廃棄物関連では研究者レベルでの交流はある。韓国とは協定を結んでいろいろ話は聞いている。中国とは年に1度程度の交流をしている。(加藤)
- ・国際交流の中で取り上げるべき課題について引き続き検討することとしたい(酒井)。

(4) BSS への取り組みについて

- ・BSS への取り組みのあり方はICRPの場合とは異なる。ICRPの場合は全面的に公開であり、国際対応委員会としてコメントを直接送ったが、BSSの場合には、国内対応委員会(7月10日開催予定)での論議をへて、文部科学省で取

---

りまとめ、国からの意見として IAEA に提示される。BSS へのコメント取りまとめに関しては文部科学省の了承を得て進めており、公開性には留意する必要がある。(服部)

- ・各自のコメントを紹介し意見交換を行った。全体の構成、言葉の定義、ICRP 勧告の反映などにつき意見が述べられた。コメントは、対案を提示した上で文書として委員会内で共有し、これを服部副委員長が取りまとめて国内対応委員会にて報告することとした(酒井委員長が国外出張で不在のため)。
- ・今後は7月16日~20日にウィーンにて開催される IAEA での検討会議の結果と、そこで示されるであろう作業日程を考慮して、委員会としての対応方策を決定することとした。

(5)委員会活動の学会員へのフィードバックについて

- ・国際対応委員会の活動状況を、学会誌、ニュースレター、ホームページなどの媒体を通して学会員に周知するよう努力することとした。

(国際対応委員会委員長：放医研 酒井一夫)

### IAEA・BSS への取り組みについて

- (1) BSS改訂版ドラフト(6月22日に加盟国に配布)につき、専門家集団として国際対応委員会での検討とコメント作成を文科省に申し入れた。
- (2) 申し入れが承認され、ドラフトを入手し、国際対応委員会内で検討した。
- (3) 検討結果を、服部副委員長が国内対応委員会(7月10日)にて報告した。
- (4) 国際対応委員会で検討したコメントは、文科省が取りまとめた国からの意見の中に反映され、7月16-20日にウィーンで開催された「IAEA 基本安全基準(BSS)改定のための草案作成技術会合」において日本からの参加メンバーにより活用された。
- (5) 今後技術会合出席者等から今後のスケジュール等に関する情報を入手し、国際対応委員会としての対応方針を決定する予定である。

(国際対応委員会委員長：放医研 酒井一夫)

## 専門研究会等の報告

### ICRP 新消化管モデル

ICRP は、1994年にPubl.66としてヒト呼吸気道モデル(HRTM)を開発・刊行し、その後、引き続いてヒト消化管モデル(HATM)の開発を進め、2006年末にPubl.100「放射線防護のためのヒト消化管モデル」として刊行しました。このことにより、1979年に刊行されたPubl.30のモデルの主な部分の改訂が一通り終了したことになります。これらHRTM、HATMいずれのモデルも、成人男子、女子および小児に対するパラメータ値を与えています。このことにより様々な放射性核種に対する内部被ばく線量評価において、職業被ばくのみならず、公衆被ばくの線量評価にも適用することが可能となりました。こうしたICRP線量評価手法の改訂が近い将来法令等へ反映されることも予想されるため、HATMについて学会員の間で共通の理解を深める必要があります。

本専門研究会(主査：石樽(名大))は、HATMに関する情報共有を進めるとともに解説書を作成し、またHATM導入が内部被ばく管理へ与えるインパクトを検討して学会員の間でHATMに対する共通の理解を深めることを目的として、委員15名をもって、本年4月から活動をはじめました。

活動の概略スケジュールとしては、

平成19年度 Pub.100のレビュー

平成20年度 Pub.100に関する課題の抽出と整理、検討。報告書作成

成果の公表として、

① Pub.100の解説書の作成

② 研究発表会での検討状況報告 等

を考えています。

これまで、第1回研究会を6月25日(於東京)、第2回を9月6日(於名古屋)に開催し、Publ.100の第1章から第6章まで、各章のレビューを行い、疑問点について討論することにより、メンバー内でのPubl.100の理解を深めているところです。今後、残りの章のレビューを行うとともにPubl.100の解説書の検討を進める予定です。

なお、参考までにPubl.100の各章のタイトルを以下に示します。

1章 Introduction (はじめに)

2章 Anatomy and physiology of the alimentary tract system (消化管系の解剖学、生理学)



- 
- 
- 3章 Absorption, retention, and secretion of radionuclides in the human alimentary tract  
(ヒト消化管での放射性核種の吸収、残留、分泌)
  - 4章 Radiation effects (放射線影響)
  - 5章 Description of the model (モデルの記述)
  - 6章 Transit times through the alimentary tract (消化管の通過時間)
  - 7章 Morphometry and dosimetry (形態計測と線量評価)
  - 8章 Use of the model (モデルの利用)

(幹事：原子力機構 伊藤公雄)

### 大学等教員協議会

大学等教員協議会では、今後の保物教育のアクティビティを維持・発展させるために、担当教員および設備に関する情報を共有し、教員間の横の連携を強める目的で活動を行っています。その基礎となるのが関連教員の情報の把握です。現在、学会 HP に協議会リストが掲載されていますが (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/daigaku/daigaku.htm>)、未だ十分に整備されていないのが実情です。

本年度前半は学生活動の活発化を目指して卒論等情報の学会誌掲載や研究発表会でのサテライトフォーラム開催を行いました。本年度後半は教員協議会の活動強化を目指して、第1段階として協議会リストの充実を図りたいと考えています。つきましては、未だリストに掲載されていない教員の方がいらっしゃれば、是非情報をお送り下さいますようお願いいたします。

#### 必要情報

- ・研究室名 (大学、研究科・学部、専攻・学科、研究室名)
- ・責任者の職名、氏名
- ・郵便番号および所在地
- ・研究室 HP の URL (あれば)、なければ責任者のメールアドレス
- ・研究内容および最近の話題
- ・HP への掲載の可否
- ・名簿の協議会内配布の可否

#### 送り先

名古屋大学 山澤弘実 ([yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp](mailto:yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp))

(大学等教員協議会担当理事：名大 山澤弘実)

### 若手研究会

#### 1. 若手研研究会夏期セミナー開催のお知らせ

若手研究会では本年度も夏期セミナーを開催する予定です。開催にあたり、アンケート等にご協力頂いた皆様には感謝申し上げます。

#### 「2007年度若手研究会セミナー」

日時：10月13日(土) 13:30～

場所：東京大学アイソトープ総合センター 2F 講義室 (東京都文京区弥生 2-11-16)

スケジュール：

13:30～ 挨拶・自己紹介

13:45～ 講演

テーマ：我が国の原子力報道のあり方について考える

講師：中島 達雄先生 (読売新聞東京本社編集局科学部 東京大学大学院工学系研究科)

講演時間：30～45分

内容：原子力報道の特徴と問題点 ～新潟県中越沖地震の「放射能漏れ」報道のあり方を中心に～

講師：三瓶 正三先生 (日本テレビ 水戸支局)

講演時間：30～45分

内容：茨城県の原子力災害時と核テロ災害時の広域避難・救護計画のモデルについて

-休憩-

16:00～ 自由討論

17:30～ 懇親会

尚、本稿執筆時は開催日以前のため、内容等詳細につきましては学会誌や若手研ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/wakate/wakate/wakate.html>) に追って記載する予定です。

## 2. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は45名です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：吉富 寛 日本原子力研究開発機構

TEL：029-282-6182, FAX：029-282-6169, E-mail：yoshitomi.hiroshi@jaea.go.jp

幹事：高見 実智己 放射線医学総合研究所

TEL：043-206-3112, FAX：043-284-1769, E-mail：mtakami@nirs.go.jp

幹事：山外功太郎 日本原子力研究開発機構

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-6063, E-mail：yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

(主査：原子力機構 吉富 寛)

## 学会 掲 示 板

### 企画委員中田博三氏ご逝去の追悼文

企画委員である三菱重工の中田さんがご逝去されたとお聞きしましたのは、8月21日に会社の方から亡くなられたことによる企画委員会の運営上の手続きについてのお問い合わせがあり、知ることが出来ました。

中田さんは、昨年末に前任の企画委員の方が異動により保健物理関係の業務から離れたことから、その交替として委員をされていました。今年3月の企画委員会は仕事の都合で欠席され、5月の企画委員会の頃は体調が思わしくないとのことで半年ほど入院加療することになったとお聞きしていましたが、まさかこのような形で復帰できなくなると思いませんでした。中田さんとは電話を通して委員への就任手続きや、委員会のお知らせなどお話ししてきましたが、はきはきした元気のよいお声が今でも記憶に残っております。元気な中田さんを交えて企画委員会で活発な議論が出来ることを期待していただいただけに本当に残念です。

最後に謹んで中田さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

(企画委員長：原子力機構 古田定昭)

### インターネットグループの活動

インターネットグループ (IG) は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

主査 兼 メーリングリスト管理：山崎 直 (原子力機構)

ホームページ保守：中野政尚・古渡意彦・山田克典 (原子力機構)、荻野晴之 (電中研)

ニュースレター編集：佐川宏幸 (福山大学)、鈴木敦雄 (静岡県)

IG活動へ興味を持たれた方、学会ホームページ等活動内容へ改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス ([jhps@wwwsoc.nii.ac.jp](mailto:jhps@wwwsoc.nii.ac.jp)) へメールしてください。

### メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月10件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局 ([jhps@iva.jp](mailto:jhps@iva.jp)) まで配信先アドレスを連絡願います。

(IG主査：原子力機構 山崎 直)

### 学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています (括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、NPO 事務センターにお申し込み下さい (送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあ

---

---

ります。

- 1) ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説 (1995) 1,777 円 (32 部)
- 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書(1998) 1,700 円 (53 部)
- 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998) 2,000 円 (81 部)
- 4) 自然界の放射線 (能) の面白さ、相互理解の掛け橋に(2001) 1,700 円 (128 部)
- 5) 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係(2002) 2,000 円 (159 部)
- 6) 放射線の人体への影響 第3版(1986) 800 円 (会員割引価格、送料込) (4 部)
- 7) 放射線の人体への影響 第5版(1992) 800 円 (会員割引価格、送料込) (15 部)

連絡先：日本保健物理学会事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-5-3-716 事務センター

TEL 03-5339-7286 FAX 03-5339-7285 E-mail: jhps@iva.jp

### 「学友会」活動報告

この度は、学友会の今後の活動を担う主力メンバーが決まりましたので、報告いたします。

これまでの活動においては、運営面において主に首都圏の学生が中心になっておりました。しかし今回は、もっと学友会活動の幅を広げるために、各大学それぞれに代表者を立てることとしました。これら代表メンバーを中心として、基本的には多地域でコンセプトのある活動を行い、時々は一堂に集まって発表会等を行うことを考えております。

名古屋大学／太田 雅和

首都大学東京／津田 啓介

藤田保健衛生大学／山田 純也

放医研／北條 智美

琉球大学／益田 和

東京大学／嶋田 和真

学友会は、今後も活動の幅を広げていきたいと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。

(学友会代表：東大院工M2 孫 尚卿)

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：佐川 宏幸 (福山大学)